科学保安講習会を開催

日本万引防止システム協会

工業会　日本万引防止システム（東京都新宿区、稲本義範会長、TEL03・3355・2322、以下、JEAS）は、11月16日に高千穂交易のセミナールームで「第3回科学保安講習会」を開催した。

科学保安講習会はJEASの推奨顔認証システムを活用することにより、効果的かつ安全に保安業務などを遂行することを目的に行っている。

開催にあたり、JEASの稲本会長が挨拶。「万引犯を大別すると、職業型と素人型に分かれます。職業型は生活の生業とするタイプに加え、大量窃盗団のように大型の組織を持っているところもあります。素人と言ってもプロに近い方や病的な方もいます。素人型は同一店舗で行っており、本日参加されている保安員の方々が確保していますが、職業型は手も込んでおり難しくなっている。そういう時に顔認証システム（顔識別機能付きカメラ）が有効活用できます。

科学保安とは当工業会が推奨認定した最高レベルの顔認証システム5機種を使って、窃盗集団の顔を登録、類似した人物の来店を早期に認識し、犯行の未然防止を行う保安警備を指します」と語るとともに、現場の科学保安員がデータ分析力を養う必要性を提起した。

続いて、個人情報保護委員会事務局の大星光弘企画官が来賓として挨拶。警備業務や保安業務に従事する方々への活躍に言及した上で、「より安全な方法の1つに、顔認証（顔識別機能付きカメラ）の導入が検討されているところです。こういった新しい技術を学んでいただくとともに、適正な運用が必要です。そうした観点で個人がカメラに映るため、プライバシーや個人情報保護について留意していくことが必要となっています。そうしないと昨今ではネット上で炎上したり問題となったりすることで、企業の評判を落としかねません。このバランスを取ることが必要だと思います。

私どもはカメラ識別についての報告書を取り纏めました。これは稲本会長をはじめ会員企業の皆さまに、実際に導入している企業を紹介いただき、その意見を纏めたものです。この講習会において、技術とともに気をつけないといけない個人情報とかプライバシーを学んでいただき、皆さまが第一線で活躍されて安全安心が引き続き確保されることを願っています」と語った。

講習会ではJEAS推奨顔認証制度の説明、顔認証を活用した保安業務、個人情報保護や全体のデータ活用などを説明。終盤には学んだ内容を確認するためのテストも実施された。